

日米会談「首相は踏み込んで成功」

外交担当の首相補佐官である河井克行衆院議員が16日朝、都内のホテルで講演し、先日の日米首脳会談の内幕を語った。

「これほど事前に心配された日米の首脳会談はなかった。急いでやるべきではない、新政権の陣容が固まっていない、政策の方向性がはっきりしない」など慎重論が多かった。しかし、安倍晋三首相は逆だった。

『少しでも早く会うべきだ』と。政治的には、それがプラスになるかは不明だった。安倍首相はたじろがず、踏み込んだ。

結果はどつだったのか。
「大成功だった。ドナルド・トランプ大統領は安倍首相の言うことは、すべてOK。冒頭、19秒も見つ

め合って握手。2日間で4回も、昼と夜、昼と夜の会食をした。通常は1回。まったく異例のことだった。フロリダではずっと車で一緒。大統領は『うまが合う』といい、首相を見るまなざしが普通でない親密さだった。

会談の中心は、
「まず麻生太郎副総理とペンス副大統領の間で、日米経済対話が決まった。普通は財務長官、国務長官なのが異例の副大統領だ。G7(先進主要7カ国)、G20(20カ国・地域)首脳会合などの多国間会議の際に必ず日米首脳会談を開くことも決まった。これは大統領にとつて安倍首相が相談相手の第



5548

就任前の大統領にニューヨークの記者も入れて会見となった」

トランプタワーで会ったのが大きく、結果的に安倍首相だけ。なぜトランプ氏は安倍首相を求めたのか。
「トランプ氏の真の狙いは米国における雇用と投資を増やすこと。」

1順位を意味する。現時点では米英関係を日米関係がしのぐ状況だ」
ほかに、
「北朝鮮のミサイルに2人が並んで対応した。もともと安倍首相が日本記者団のぶら下がり取材に対応する予定だった。大統領が『自分も出る』と言いつい出し、警備陣が大騒ぎのなか、別荘で他国の記者も入れて会

「シヨブ(雇用)は上下両院選挙で共和党の訴えでもあった。その答えを持っている国は日本だ。もう1つは、大統領は公職をしたことがなく、外交・安全保障の経験不足。対して安倍首相は500回以上の首脳会談の実績があり、大統領は『相談役』と考えているようだ」
ゴルフについての裏話。
「昨年10月5日に訪米したとき、シンクタンクの代表から『トランプ氏の外交は個人的人間関係で展開される。一緒にゴルフをすることだ』とアドバイスを受けた」
河井氏が結んだ。
「トランプ氏を恐れることはない。しかし、侮ってもいけない」
(政治評論家)

河井克行氏「大統領の相談役に」